



## 編集後記

1月9～14日の岸田首相の欧米5ヵ国歴訪に同行した、首相の長男で政務秘書官を務める翔太郎氏が、首相の首脳会談や記者会見中に、現地大使館の公用車を利用してパリ市内を巡り、ロンドン市内ではデパートにも行ったというニュースがあった。

この件は国会でも話題になり、野党議員は、お土産購入や観光目的に公用車を使用するのは是非を巡って首相に迫り、岸田総理は「公務だ」と明言して対抗した。

しかし、首相に同行した秘書官が、フリータイムに勝手にウロウロと歩き回ったり、買い物をしたりすることで、万が一何か事件に巻き込まれたりしたら大事件である。

この公用車、外務省によると、273の国や地域の在外公館に、合わせて1200台以上あるとのこと、外国製だけでなく、現地で日本車を調達することも多いそうである。

元外交官の発言で、「公用車であれ借り上げた車であれ、移動には政府の予算、すなわち国民の税金が使われて

いる」として苦言を呈したと報道にあったが、いったいどの程度の金額が使われたのだろう。

産経新聞によれば、国会議員の歳費や文書通信交通滞在費や立法事務費、さらに公設秘書の給与、衆参両院の議員会館や議員宿舎の維持費、職員給与などを含めた衆参両院の予算は約1220億円、さらに政党交付金約320億円を加えると計1540億円、その費用を国会閉会中も含めた日割りで換算すると1日あたり4億2000万円となるそうである。

その国会において、この件が採り上げられ、野党議員がわざわざパネルまで掲げて、ことの是非を首相に迫る一幕もあったが、果たして1日に4億2000万もかかる国会の場で、いったい幾らの無駄遣いを巡っての論戦が行われたのだろう。

パリやロンドンで、運転手とクルマをチャーターすれば概ね1日当たり7～8万円という。今回のように公用車を使うのなら、その車両の維持管理費を別にすれば燃料費とそんなに高くても1万円までは掛かまい。

もちろんその後、同性婚をめぐる「見るのも嫌だ」などと発言し、更迭

された総理大臣秘書官の件もあり、岸田総理を取り巻く秘書官の「質」の問題は問われるべきだと思うが、それにして1万円にも満たないような、首相外遊中の秘書官による「政府の予算、すなわち国民の税金の支出」を巡って、1日に4億2000万もかかる国会の場で云々するのは如何なるものである。

それこそ、43兆円という防衛費の是非や財源、新型コロナウイルスへの新たな対応策、異次元の少子化対策など、貴重な国会開催中に論じられるべきテーマは山積している。

今回のように、低レベル極まりない「公用車私用問題」が持ち出される背景には、国民への視線を欠いた権力争いの構図が見え隠れする。

与党であれ、野党であれ、投票によって選ばれ、国民の負託を受けた国会議員が、国民への目線をずらすこととなく、貴重で高額な「国家」の場での論戦を繰り返してこそ、1日に4億2000万という国会運営にかかる金額にも納得がいくはずである。

原稿を読んでばかりいないで、国会議員自身の生の言葉による、迫真の論戦を期待したい。(溪)

# 月刊 公論

3月号 第56巻3号

令和5年3月1日発行 毎月20日発売  
本体価格1,100円(税込) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清  
発行所 株式会社財界通信社  
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル  
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616  
印刷所 株式会社広済堂ネクスト  
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。